

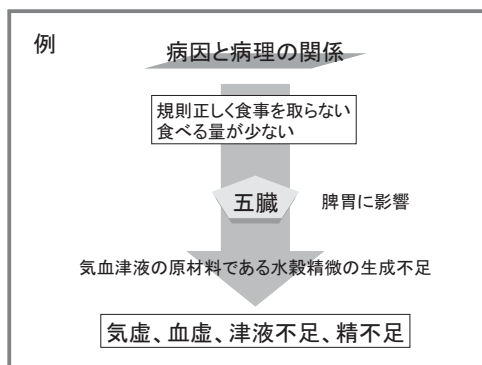
病因と病理の 関係

2-1 規則正しく食事をとらないと？

病因と病理の関係を簡単に考えてみましょう。

まず、規則正しく食事をとらない、あるいは食べる量が少ないと、人はどうなるのでしょうか？

規則正しく食べないと、どこに負担がかかりますか？ お腹ですね。臓腑でいうと特に脾胃に影響します。脾胃に影響すると、気・血・津液・精の原材料である〔 〕の生成が不足し、その結果、気・血・津液、あるいは精の生成不足が起こってきます。ですから、しっかりと、規則正しく食事はとらなければなりません。脾胃がしっかりと正常に働けば、気虚・血虚・津液不足・精不足といった病理変化は起こらないのです。



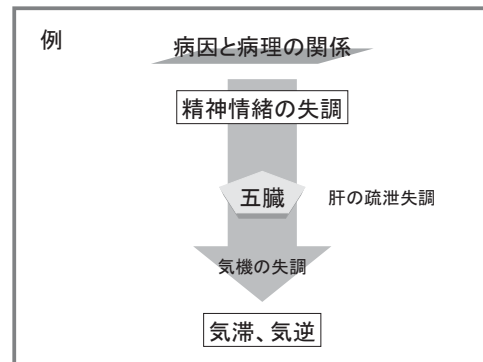
2-2 精神情緒が失調すると？

次に、精神・情緒面での失調がどの臓腑に影響しやすいのかを見ていきましょう。

情緒、つまり七情の変化は肝の疏泄に影響しやすいという特徴があります。肝の疏泄は気機、つまり気の動き・行りの調節めぐを行っていました。疏泄の失調によって気機の調節が悪くなると、

気の行りが悪くなる気滯、気が上に衝き上がる気逆といった病理変化が現れてきやすくなります。気滯や気逆については後で詳しく見ていきます。

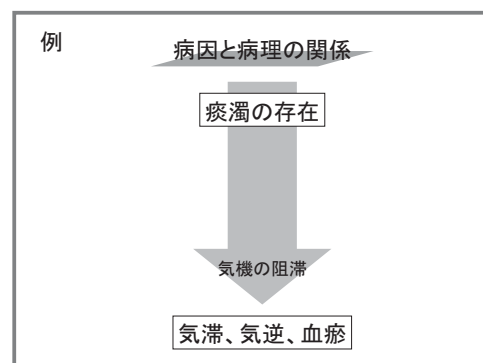
さらに、精神面ということで考えると、神志を主っている [] の方にも影響が及ぶ可能性があります。



2-3 津液が停滞して痰濁が生じると？

例えば、水の代謝が悪くなって、汚い水、すなわち痰濁が体のなかに存在するようになったとします。湿や痰濁には、粘滯性・[] という特徴があります。特に粘滯性によって、気の動きが悪くなって滞りやすくなり、気機の阻滯を引き起こします。

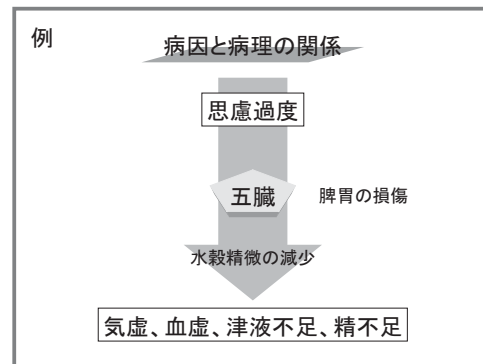
その結果、気の滞りである気滯や、気逆、あるいは血行障害としての血瘀などの病理変化も現れやすくなってきます。



2-4 思慮過度により起こる病理は？

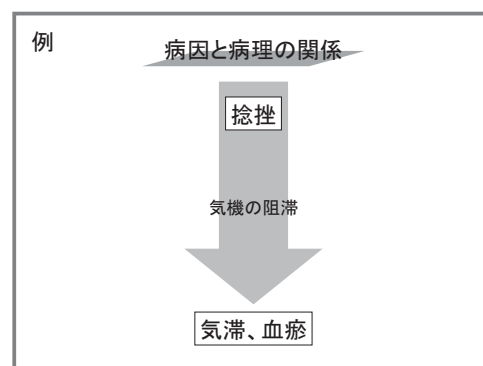
次は思慮過度の問題です。勉強もよいのですが、しすぎるとどうなりやすいのかを考えてみましょう。勉強にも適度な休息が必要です。

思慮過度は「思」というキーワードが大事です。この「思」で思い出す臓腑は脾ですね。脾胃に影響を及ぼして、[]の生成が減少すると、いろいろな虚証を引き起こします。



2-5 捻挫などの外傷により起こる病理は？

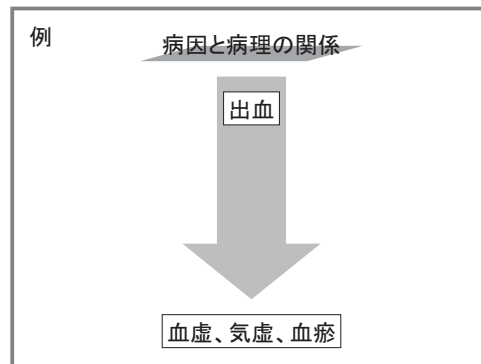
次に捻挫ですが、捻挫をすると、まず^{めく}気の行りが悪くなります。捻ると血行も悪くなり、ひどい場合には血瘀あるいは内出血を伴います。軽い場合だと、捻った部位で気の行りが悪くなる、いわゆる気滞が起こり、その結果、脹った痛み、すなわち[]が患部に起こりやすくなります。



2-6 出血によって起こる可能性のある病理は？

次は外傷による出血、あるいは分娩・外科手術などの出血について一緒に考えましょう。こういった場合には[]を引き起こしやすくなります。また、大量出血を考えてみてください。大量出血の場合、流出によって血は不足しますね。同時に、気と血は一緒に循環していますから、血が出て行ったぶん、気も一緒に出て行ってしまいます。ですから大量出血の

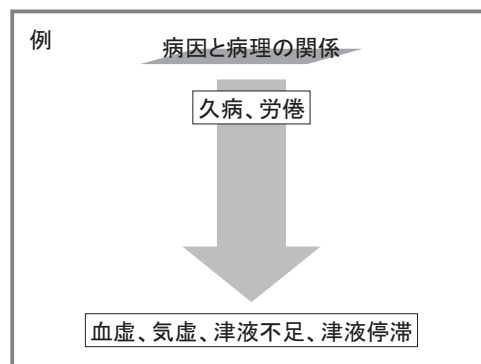
場合には、血虚だけでなく、[] も併発しやすいのです。



2-7 久病や労倦が原因で起こりやすい病理は？

久病の「久」には、久しい、長期的、長いという意味があります。慢性の病や労倦といったものは多くの場合、気虚・血虚・津液虚などの基本病理を起こしやすくなります。

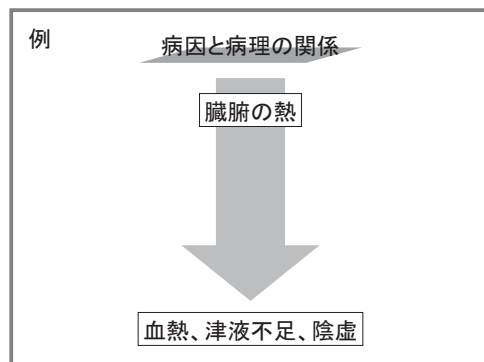
さらに、水・津液の循環は気の [] 作用に依存しているので、気虚になって [] 作用が低下すると、津液の停滞といった病理を引き起こす場合もあります。



2-8 臓腑の熱により起こりやすい病理は？

最後は臓腑の熱についてです。体のなかに熱がこもっている場合、熱で損傷しやすいのは体内の液体成分であり、津液や陰液を損傷して陰虚を引き起こしたりします。

特に臓腑のなかでも、心は血を主り、肝は血を蔵しています。臓腑の熱で、もし心や肝に熱がこもっているとすれば、血はどうなりますか？ 血も熱くなりますね。これが血熱といわれているものです。



2-9 胃に熱がこもっているケース：歯痛との関係

胃に熱がこもっているケースを考えてみましょう。

胃に熱がこもっていて、この熱の炎上性によって、熱が歯に影響した場合、歯痛が起こります。上歯槽と下歯槽がありますが、胃経は〔 〕につながっています。このように熱が胃経を通じて下の歯に影響して歯痛が起こっているような場合は、清熱する必要があります。

清熱作用に優れているツボは、^{えいけつ}榮穴と呼ばれているツボです。胃経の榮穴は内庭というツボです。歯医者さんもびっくりします。内庭は歯医者さんに行っても治らないような歯痛でもかなり効くからです。真っ赤に腫れてズキズキ痛んで熱感も強い、いわゆる炎症反応が起きているようなときには、内庭に針を入れると熱が冷めます。腫れも引いて痛みもなくなります。

